

「日本版竜巻スケールおよびその評価手法に関する研究」

小規模ではあるが激甚被害をもたらす竜巻等に対する個人や行政レベルの対応、あるいは構造物の耐風性や設計上の考え方については、米国等に比較してわが国の状況は極めて不十分です。

竜巻の認識件数は増加傾向にあるが、顕著な影響は極めて限られた時空間的に現れるため、実態の把握が難しく、さらに竜巻発生の実態把握を的確に行うためには、竜巻の特徴を的確に表す分類評価を実施する必要があります。1971年に藤田哲也により提案されたフジタスケールは、世界各地で使用されましたが、被害程度の認識方法や風速の推定方法が明確でないなどの問題が指摘され、米国では2001年頃から従来のフジタスケールに対する見直しが始まり、現在は改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EFスケール)が用いられています。日本においては2015年12月、気象庁から米国のEFスケールに相当するものとして「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」(JEFスケール)が提案され、2016年4月から運用されています。本研究会では、これまでの運用状況をまとめ情報交換を行い、日本版改良フジタスケールの理解と運用に寄与することを目的といたします。奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

奥田 泰雄 (建築研究所)

開催日時：2017年3月4日(土) 13:30~18:00

開催場所：東京工芸大学中野キャンパス 芸術情報館3階大会議室

参加申込：当日会場にて受付いたします。その他、お問い合わせは、東京工芸大学 風工学研究拠点
事務局 TEL：046-242-9658 までお願いいたします。

プログラム

司会・進行 建築研究所 奥田泰雄

13:30~ 趣旨説明

北京交通大学, 東京工芸大学 田村幸雄

13:40~15:00 日本版改良藤田スケールの概要と運用状況

気象庁 田中恵信

- 1) H28の日本版改良藤田スケールの適用結果の概要
- 2) ガイドラインの評価・見直しについて
- 3) ガイドラインの英文化
- 4) 日本版改良藤田スケールの成果発表状況
- 5) 海外の竜巻スケールの動向
- 6) 竜巻発生確度ナウキャストおよび竜巻注意情報の改善
(質疑応答・討論)

(休憩20分間)

15:20~17:20 関連研究の紹介

1) 樹木被害に関する検討

森林総合研究所 鈴木 覚

2) 車両の飛散速度

東京工芸大学 松井 正宏

3) ドローン利用調査事例

徳島大学 野田 稔

4) 気象研究所におけるレーダーを用いた突風探知研究 これまでと今後

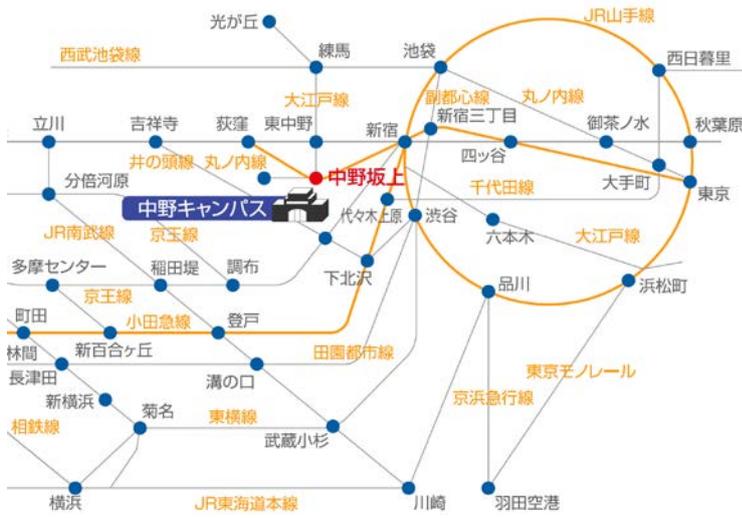
気象研究所 楠 研一

5) ダウンバーストの模擬実験

東北大学 植松 康

17:20~18:00 総合討議・まとめ

●東京工芸大学 中野キャンパス交通アクセス



・東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線 中野坂上駅

出口 1 2 3 A1

・1 番出口より山手通りを初台・大橋方向に進み、成願寺を右折(徒歩約7分)

